俳句

大津俳句会

風のごと来ては去りたる萩の蝶　井芹眞一郎

白も又燃えさかる色曼珠沙華　秋山　恵子

山門に風美しく芙蓉咲く　市原　初女

三日月や家路を急ぐ雲間より　大塚喜久子

無住寺のこぼれて暮るゝみだれ萩　岡崎　浩子

直立の今朝の噴煙秋の空　坂本　セキ

有難く助言受け入れ爽やかに　佐賀　久子

稲の花水面(みなも)真白に染めにけり　堀川　妙子

阿蘇谷の蕎麦の豊かにみのりをり　松尾　昭雅

秋風や共に学びし人逝きて　渡邊佳代子

俳句

つのはな句会

苦瓜の花咲く　奴はまた留守か　星永　文夫

首すじを風すり抜ける今朝の秋　水野　春子

虫の音に心をあらう仕事終え　梅木トキエ

紫蘇ジュース飲んでほろほろ道祖神　塚本　洋子

赤とんぼゴルゴダまでの重い羽根　榮田しのぶ

老体に鋭角にくる秋の冷え　志賀　孝子

遠い日も昨日も海月(くらげ)　浮いている　田上　公代

雑念を払って初秋の風を聴く　木庭　杏子

青鬼灯(あおほおずき)揺れて裏路地沈黙す　上杉　波

自分史にいく色足せば大花野　矢嶋　道子

短歌

大津短歌会

今年また二人静が庭に咲く
吾が名と親(ちか)し背すじのばして　管野　静

うすべにの小花幾千咲かしめて
合歓(ねむ)の古木は風にゆらぐも　吉永　恵子

草取りは蚊との戦い待ち受ける
庭に出でゆきフマキラーを撒く　豊岡ミツル

乗り合わす電車の中はスマホ人
バリアー張りて人は寡黙なり　渡辺佐代子

災日に水源に寄る人の群
白い飛沫(しぶき)を全身に浴び　鞍　岳志

金田一の後輩思う友情に
感謝感謝と礼する啄木　小平　善行